

つきたい力

- 思考ツールを活用し、論理的に思考する力
- 他者と協働して問題を解決する力

取組みの概要・ポイント

- 授業支援ソフト（ロイノート）に搭載された思考ツールを積極的に活用、思考力を育成する。
- 共同編集ができる機能やクラウド共有を活用し、対話的、協働的に問題解決する学習に取り組む。

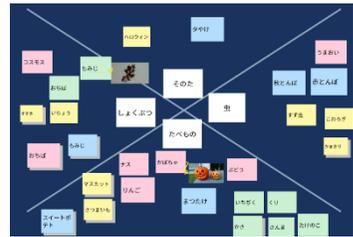


情報活用  
能力体系表

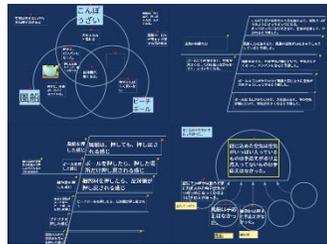
具体的な取組みの内容

取組み①：思考ツールの活用

- 思考ツールの活用 関連：情報活用能力体系表 B 思考力、判断力、表現力
  - 【段階①】 「課題に合わせて教員が選択したツールを活用し、思考スキルを習得する。」
  - 【段階②】 「習得した思考スキルから、複数のツールを組み合わせて問題解決に取り組む。」
  - 【段階③】 「課題の目的や意図に応じて自分の判断でスキルを選択し、ツールを活用して問題解決に取り組む。」



〈活用①〉 2年「秋がいっぱい」  
 秋の生き物や食べ物、行事などをXチャートを使って4項目に分類する。言葉だけでなく、児童が撮った写真も活用している。



〈活用②〉 4年「とじこめた空気や水」  
 同じ課題に対して、各班で相談しながら、自分たちの思考スキルに合わせてツールを選び活動している。

取組み②：共有・協働学習

- ロイノートの提出箱などを利用した考えの共有。 関連：情報活用能力体系表 C 学びに向かう力、人間性等
  - 互いの考えをいつでも共有できる
  - ↓
  - 考えを生み出す  
考えを深める
- 共有ノートやGoogle Jamboardを活用した協働学習



〈ポイント①〉  
 班員それぞれのカードの色を決めておくことで、どのカードが誰の意見かわかるようにしている。

〈ポイント②〉  
 同じノートの中でも課題に合わせて、別々に活動するか、一緒に活動するかを自分たちで選択している。



取組みを通しての子どもの変容

- 各アンケート項目の肯定的な回答の割合が増加した。特に「タブレットパソコンを使って、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。」の項目においては、1学期の81%から96%と15ポイント上回り、大きな成果が見られた。
- 共有・協働学習により、効率よく考えの比較・共有ができ、自分の考えを深められる手立てや、苦手な児童が考えを持つための支援となっている。また、取組みを進める中で、児童が自分の学びの形に合わせて、友だちの考えを参考にするかどうか自分で考え選択するなど、主体的に学習に取り組む様子も見られる。